

一般社団法人東京奈良県人会のあゆみ

東京奈良県人会は、明治26年10月に、高取町出身の山田三良氏（後の日本学士院院長）が、「もともと奈良県民は土地柄か結束力が薄い。ここらで一つ纏まろうじゃないか。」と在京の人々に呼掛けて、「東京大和会」（東京奈良県人会の前身）を結成したのが始まりである。

その後、東京大和会がどのような活動を行なってきたのか、詳細は当時の方々のご存命でないで分かりかねるが、現在とは違って、電話も各家庭には設置されていない上、その通話も即時通話どころではなく、また関東から大和までは夜行列車で一日掛かり、その先の県内交通機関も整備されていず、往来に大層な時間を要した時代に、遠く郷里を離れて懸命の努力を重ねていた多くの郷土出身者にとって、県人会は苦難を支え、喜びを分けあって、心の拠り所となってきたことは想像に難くない。

戦後は、東吉野出身の谷善之丞氏創業の銀座の三笠会館で会合を重ね、荒廃の世にあつて郷土出身者の心の拠り所としての役割を果たしてきた。

昭和37年に会長は山田三良氏から、五条市出身の木村篤太郎氏（法務大臣、防衛庁長官等を歴任）に引き継がれ、昭和57年に逝去されるまで20年間務められた。特に木村篤太郎氏は県人会会員に対して「郷里を同じくする者は既に10年の知己である。」として同郷人相互の交流を奨励し、また郷土出身の若者に対する援助を惜しまなかった。

昭和40年代には、県から二人の国務大臣の誕生を祝う祝賀総会を開催するなど、県人会は隆盛を極めた。しかし、高度経済成長に伴う人々の志向の変化もあつて次第に会への出席者は減少し、年一回の総会開催すら危ぶまれることもあつた。運営事務を担う幹事会も二人の体制となり自腹で運営費を遣り繰りするような努力が行なわれ、そこに会長の資金拠出もあつて、今日の県人会へとつながっていった。

その後、大淀町出身の杉本一幸氏（オンワード樫山代表取締役副社長）、木村篤太郎氏女婿の木村剛輔氏、十津川村出身の西与吏郎氏（双美交通専務取締役）、橿原市出身の秋山利郎氏（東洋精糖（株）会長）が、会長として県人会の発展に力を尽くしてこられた。現在は再び西与吏郎氏に会長として再登場いただいている。

現在、首都圏で活躍されている奈良県出身者及びその縁故者をはじめ、奈良での勤務経験者、奈良愛好者など、奈良と何らかのご縁のある方々を会員として、総会、文化交流会、新年会、参与会の開催をはじめ、時々の郷土訪問旅行の催行、年2回の会報の発行などの諸活動を実施している。また、奈良県と共催の「ふるさと奈良の集い」は、より広いサークルでの交流の場を提供するものである。

平成20年8月にはホームページを開設し、入会案内や行事のご案内のほか、「奈良面白知識コーナー」を設け、平城遷都1300年記念として22年7月に出版した「奈良方言集」をはじめ、「帯解寺の子安地蔵」の由来など18話を収めた「大和の伝説」、「奈良の難読地名・個性的な読み方の地名」、「姉妹都市・友好都市」を収録し好評を博している。

さて、当県人会は平成25年に創立120周年を迎えた。その運営基盤となる組織は設立当初から任意団体として維持されてきたが、時代の変遷に適応し、会の更なる発展を期すため、平成26年6月2日をもって「一般社団法人東京奈良県人会」として法人格をもった組織へと衣替えをしたところである。

会員各位の諸活動への積極的なご参加と友人・知己のご紹介を歓迎します。

一般社団法人東京奈良県人会のあゆみ年表

<p>明治26年 (1893年) 10月</p>	<p>「東京大和会」発足 初代会長山田三良氏就任（～昭和37年まで）</p> <div data-bbox="657 389 1091 672" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">山田三良氏胸像（学会館内）</p> <p>(参考) 明治26年という年</p> <p>東京奈良県人会の前身である「東京大和会」が結成された明治26年（西暦1893年）は、日清戦争の1年前である。同年には、</p> <ul style="list-style-type: none"> 1月：日比谷公園完成 2月：アメリカ・ハワイ併合調印 3月：弁護士法制定：大阪・神戸間の電話開通 4月：奈良県出身の津村順天堂創業、「中将湯」発売 6月：海軍大尉郡司成忠、北地防備の目的にて、同志数十名と共に択捉島に到着 7月：御木本幸吉、真珠の養殖に成功 8月：君が代など8曲、祝日大祭日の唱歌として正式発表 <p>というような出来事が記録されている。</p>
<p>昭和23年 (1948年) 10月</p>	<p>椿山荘会合</p>
<p>昭和32年 (1957年) 11月</p>	<p>山田三良氏米寿、中川正左氏喜寿大会（於：学会館）</p>
<p>昭和37年 (1962年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二代会長 木村篤太郎氏就任 （～昭和57年まで） ・ 東京奈良県人会に改名
<p>昭和49年 (1974年)</p>	<p>東京奈良県人会名簿発行</p>
<p>昭和53年 (1978年)</p>	<p>「奈良県人会基金」設置</p>
<p>昭和54年 (1979年) 10月</p>	<p>東京奈良県人会名簿発行（付会則）</p>

昭和58年 (1983年)	<ul style="list-style-type: none"> 三代会長 杉本一幸氏就任（～昭和61年まで） 奈良県東京事務所に移転
昭和59年 (1984年) 9月	新会則施行、第1回参与会（於奈良県渋谷寮）
昭和60年 (1985年) 4月	「東京奈良県人会だより」創刊
昭和61年 (1986年) 3月	<p>第1回郷土訪問旅行 (吉野、十津川、法隆寺、奈良県庁)</p>  <p>谷瀬の吊り橋</p>
昭和61年 (1986年) 7月	四代会長 木村剛輔氏就任 (～平成6年まで)
昭和62年 (1987年) 4月	<p>第2回郷土訪問旅行 (今井町、明日香、室生寺、談山神社)</p>  <p>室生寺五重塔</p>
昭和63年 (1988年) 6月	 <p>第3回郷土訪問旅行 (若草山、東大寺、なら・シルクロード博、信貴山)</p>
昭和63年 (1988年) 9月	第4回郷土訪問旅行 (平城京、東大寺、新薬師寺、西大寺)
平成元年 (1989年) 9月	第5回郷土訪問旅行 (伊勢神宮、榊原温泉、伊賀上野、浄瑠璃寺)

平成2年 (1990年)	4月	第6回郷土訪問旅行 (熊野三山、十津川村、橿原神宮)
平成3年 (1991年)	11月	第7回郷土訪問旅行 (帯解寺、洞川、大峰山、天川村)
平成5年 (1993年)	6月	東京奈良県人会100周年 記念パーティ (於ホテルフジタ奈良)
平成7年 (1995年)	5月 10月	五代会長 西与吏郎 氏就任 (～平成10年5月まで) 熊野・十津川訪問旅行
平成9年 (1997年)	5月 10月 11月	会員名簿 (付会則) 平成9年度版発行 「東京奈良県人会だより」復刊第1号発行 第8回郷土訪問旅行 (奈良・松尾寺)
平成10年 (1998年)	2月 5月 10月	この年より新年会開催 六代会長秋山利郎氏就任 第1回文化交流会開催 奈良県橿原考古学研究所部長 河上邦彦氏 「黒塚古墳で邪馬台国は決まったか」

	新年会	総会	文化交流会	郷土訪問旅行等
平成11年 (1999年)	2月4日 (於：NHK青山荘) 「どうなる日本経済と私達の暮らし」 (財)南都経済センター理事長 土谷宗一先生	5月15日 (於：NHK青山荘) 「救急・救命はここまで進んだ」 東邦大学付属病院院長 上島権兵衛先生	10月30日 (第2回) (於：NHK青山荘) 「奈良の文化と歴史 ー最近のふるさと奈良事情ー」 帝塚山短期大学名誉教授 青山茂先生	
平成12年 (2000年)	2月3日 (於：NHK青山荘) 懇親会 (特別企画：日本舞踊落語)	5月21日 (於：NHK青山荘) 「俳句という漢方薬ー五七五の現場からー」 NHK学園編集主幹 吉川正光先生	10月21日 (第3回) (於：Sum-mi高松) 「中高年に必要な健康法ー永く楽しく生きるためー」 前群馬大学学長 石川英一先生	11月2日～4日 第9回郷土訪問旅行 (奈良、山の辺の道、橿原、明日香)
平成13年 (2001年)	2月1日 (於：NHK青山荘) 懇親会	5月19日 (於：NHK青山荘) 「身の回りの法律ー相続を中心としてー」 弁護士 菅野谷信宏先生	10月20日 (第4回) (於：Sum-mi高松) 「飛不動尊 ー空飛ぶお不動さまー」 竜光寺正寶院住職 近藤泰嘉師	 一夜にして大峰山から江戸のお寺に飛び帰って来たといわれるお不動さまが御座します
平成14年 (2002年)	2月7日 (於：NHK青山荘) 「21世紀関西復活ー光り輝く奈良にむけてー」 (財)南都経済センター理事長 柳谷勝美先生	5月18日 (於：銀座高松本店) 「シルクロードと敦煌」 国学院大学教授 土肥義和先生	11月9日 (第5回) (於：神田学士会館) 「大仏開眼1250年に想う」 東大寺執事長 上野道善師	

	新年会	総会	文化交流会	郷土訪問旅行等
平成15年 (2003年)	<p>2月6日 (於：NHK青山荘)</p> <p>曾我遺跡の勾玉 一貴石の話いろいろ</p> <p>民谷晴亮先生 (参与会員)</p>	<p>5月17日 (於：都ホテル東京)</p> <p>110周年記念総会・ 講演交流会</p> <p>「奈良の明日を語る会」 (県との共催)</p> <p>「県政の歩み・新たな 魅力の発信」</p> <p>奈良県知事 柿本善也様</p> <p>第五代会長 西与吏郎氏就任</p>	<p>11月16日 (第6回) (於：学会館)</p> <p>110周年記念 (奈良新聞社 共催、奈良県・奈良市・ 橿原市・明日香村・奈良 県観光連盟・奈良市観光 協会後援)</p> <p>「オープニングコンサート」 歌枕直美氏</p> <p>「ロマンあふれる歴史街道」 作家 堺屋太一先生</p> <p>リレー・トーク「奈良の 文化を語る」</p> <p>司会 文学博士 坂口順治先生</p> <p>ゲスト</p> <p>薬師寺管長 安田暎胤師</p> <p>世界水フォーラム 尾田栄章氏</p> <p>洋画家 絹谷幸二氏</p> <p>日本舞踊家 坂本晴江氏</p> <p>住生総研会長 前原金一氏</p>	<p>6月6日～8日</p> <p>第10回郷土訪問 旅行 (奈良、橿原、 高取)</p>



平成16年 (2004年)	<p>2月5日 (於：Sum-mi高松)</p> <p>「地域の活性一街づくりの話あれこれ」</p> <p>(株) 地域計画 システム代表 椿本雅則先生 (参与会員)</p>	<p>6月21日 (於：NHK青山荘)</p> <p>「海と船旅」</p> <p>(株) 郵船クルーズ 顧問 森本靖之先生 (会員)</p>	<p>8月27日 (於：Sum-mi高松)</p> <p>「ふるさと奈良文化論」</p> <p>文学博士 坂口順治先生 (会員)</p>	
------------------	---	--	--	--

	新年会	総会	文化交流会	郷土訪問旅行等
平成17年 (2005年)	2月3日 (於：NHK青山荘) 「異常発生予測の花粉症も恐くない」 大前研究所代表 大前巖先生	5月28日 (於：Sum-mi高松) 「奈良県政の近況と首都圏情報発信基地新設について」 奈良県東京事務所長 川田純央先生	11月26日 (於：代官山iスタジオ) 「唐招提寺金堂修復現場からの報告」 奈良県文化財保存事務所所長補佐 植田哲司先生	10月15日 奈良県が 「奈良県代官山iスタジオ」 オープン
平成18年 (2006年)	2月3日 (於：NHK青山荘) 「石舞台とドイツ・ランドシャフトパーク」 彫刻家 坂口紀代美先生 (参与会員)	5月27日 (於：Sum-mi高松) 「なぜ、御用聞きビジネスが伸びているのか」 シンクタンク・ソフィアバンク副代表 藤沢久美先生	11月18日 (於：Sum-mi高松) 「飛鳥の考古あれこれ話」 神戸山手大学教授 河上邦彦先生	10月20日～22日 第11回郷土訪問旅行 (吉野、五条、十津川、熊野古道) 11月26日 「平城遷都1300年記念事業への県人会提言」 提出
平成19年 (2007年)	2月8日 (於：NHK青山荘) 「WTO加盟で沸くベトナム産業界の展望」 JESCO ホールディングス(株) 社長 松本俊洋先生 (参与会員)	5月26日 (於：Sum-mi高松) 「県政だより」 奈良県東京事務所長 川田純央先生	11月17日(第10回) 県との共催(於：グランドプリンスホテル赤坂) 一ふるさと奈良の集いー 「藤原光明子は何故皇后になれたか」 東大寺長老 森本公誠師	

蒙古斑を同じくするベトナムの人とは、感情論も儒教も食文化も同じ。

JESCO進出先では、仕事の仕方は日本のスタイル。すべての会議は日本語で。

社会主義国といっても、実態は資本主義経済と見間違うほど。考え方は非常に柔軟。

女性の社会参加は大変進んでいる。紹介していただいた労働大臣も女性、人口統計大臣も女性、JESCO進出先の社長も女性。他にも女性社長は多い。

～県人会だよりNo. 20より抜粋～



	新年会	総会	文化交流会	郷土訪問旅行等
平成20年 (2008年)	2月7日 (於：NHK青山荘) 「奈良県経済の現状と活性化に向けて」 (財) 南都経済センター理事長 奥村隆司先生	5月24日 (於：Sum-mi高松) 「奈良県の文化財及び県政の動きについて」 奈良県東京事務所長 影山清先生	10月18日 ― 県との共催 (於：第一ホテル東京) ―ふるさと奈良の集い― 「平城遷都1300年祭」 奈良県知事 荒井正吾様 11月29日 (第11回) (於：第一ホテル東京) 「仏像に見る奈良平城京の時代」 奈良大学文学部教授 三宅久雄先生	11月15日～17日 第12回郷土訪問旅行 (伊勢 宇陀 桜井 奈良) 
平成21年 (2009年)	2月5日 (於：第一ホテル東京) 「株券電子化のスタートに当たりて」 (株) 証券保管振替機構 経営企画部長 斉藤宗孝先生	5月23日 (於：Sum-mi高松) 「型染で紡ぐ悠久の都―ベトナムから奈良へ」 京都精華大学芸術学部准教授 鳥羽美花先生	11月28日 (第12回) (於：NHK青山荘) 「奈良への想い―万葉集と私―」 映画監督 河瀬直美先生	4月 奈良県が 「代官山スタジオ」に代り 「奈良まほろば館」オープン
平成22年 (2010年)	2月3日 (於：三笠会館) 「いかにヒット商品を生み出すか―キリンビバレッジ商品開発の裏側―」 阿部経済研究所長、阿部経営塾長 元キリンビバレッジ(株)社長 阿部洋己先生	5月25日 (於：Sum-mi高松) 「ポスト1300年祭構想案」 奈良県東京事務所長 上田龍嗣先生	11月18日 (於：椿山荘) ― 平城遷都1300年記念シンポジウム1300年後の今、奈良発展の鍵は ― 東大寺長老 上野道善様 奈良県立図書館情報館長 千田稔様 シンクタンク・ソフィアバンク 副代表 藤沢久美様 ― ふるさと奈良の集い ― 県との共催	平城遷都1300年記念 「奈良県の方言」刊行

- ・そもそも、株券の電子化で何や？
- ・株券が無効になったら株主でなくなるの？
→ 大丈夫、ご安心ください
- ・特別口座で、何が特別なの？ → さまざまな制約があります
- ・年金みたいに、メチャメチャなことにならへんの？
→ まずは心配ありません

～県人会だよりNo. 24より抜粋～



	新年会	総会	文化交流会	郷土訪問旅行等
平成23年 (2011年)	2月3日 (於：NHK青山荘) 「平城遷都千三百年 祭記念祝典の概要」 奈良県東京事務所長 上田龍嗣先生	5月21日 (於：Sum-mi高松) 「奈良の魅力と文化的 ポテンシャルについ て」 尚美学園大学大学院 芸術情報研究科 定平誠教授 「奈良プロモーション ビデオ作品」3D 関東学院大学工学部 海老根秀之准教授・ 柳澤富夫講師	1月26日 (於：三笠会館) 「歴史街道へようこそ Touch The Spirit of Japan」 歴史街道推進協議会 企画調整部長 松枝健夫先生	
平成24年 (2012年)	1月18日 (於：NHK青山荘) 「コンサルティング 現場こぼれ話」 (株) 商工中金経済 研究所 常務執行役員 植嶋平治先生	5月26日 (於：Sum-mi高松) 「奈良県の高齢化の 現状と課題」 奈良県東京事務所長 増田義人先生	11月9日 (於：第一ホテル東京) 「ふるさと奈良の集い」 県との共催 11月24日 (於：三笠会館) 「古事記にみる石上神宮」 石上神宮宮司 森正光師	2月10日 第1回奈良県人会 全国大会 (於：奈良ロイヤル ホテル) 9県人会等 約350人が参加 全国大会参加及び 奈良経済鑑賞の後 東大寺大仏殿、 春日大社、 廣瀬神社、 信貴山朝護孫子寺、 龍田神社、 當麻寺、石光寺



平成24年新年賀詞交換会



	新年会	総会	文化交流会	郷土訪問旅行等
平成25年 (2013年)	2月7日 (於：NHK青山荘) 「日本経済のこと など～向こう三年 大事と思われるこ と～」 南都銀行顧問 藤塚明先生	5月25日 (於：Sun-mi高松) 「ブッダ・謎の死 -教主の死と教団-」 大本山室生寺 副住職 網代裕康師	10月28日 (於：第一ホテル東京) 創立120周年 記念コンサート 東京交響楽団首席チェリスト 西谷牧人、他に 中村恵美子、中野萌恵、 小川響子、島岡智子、 伊藤裕 (いずれも奈良県出身)	10月13日 若手の会による 奈良フェスタ in 上野 公園 主催：東京奈良県人会 共催：奈良県東京事務所 後援：台東区



120周年シンボル「藪」



平成26年 (2014年)	2月4日 (於：Sun-mi高松) 「あなたはどうし ますか？ 災害に 対する心構え」 みずほ総合研究所 相談部主任コンサ ルタント 水野高太郎先生	5月28日 (於：Sun-mi高松) 東京奈良県人会を 法人格を有する 一般社団法人とし ることを決議	11月7日 (於) 第一ホテル東京 「ふるさと奈良の集い」 県との共催 12月10日 (於) 都道府県会館 「奈良は清酒発祥の地～ 菩提泉という僧坊酒の 歴史的価値について～」 菩提山真言宗正暦寺住職 大原弘信師	
------------------	--	--	--	--



	新年会	総会	文化交流会	郷土訪問旅行等
平成27年 (2015年)	<p>2月7日 (於: Sun-mi 高松)</p> <p>「お薬と奈良のお話 ～医薬の旅～ 奈良再探訪」</p> <p>元 厚生省 医薬安全局 安全対策課 安全対策 企画官、当県人会理事 中村陽子先生</p> 	<p>6月9日 (於: ホテルグランド パレス)</p> <p>新理事3名選任 吉村浄祐理事 森田文子理事 阪本 澄理事</p>	<p>1 2月7日 (於: 都道府県会館)</p> <p>「舞踏と私」</p> <p>舞踏家 銚久奈緒美</p> 	
平成28年 (2016年)	<p>2月3日 (於: Sun-mi 高松)</p> <p>「60分 de 経営戦略」</p> <p>当会副会長、商工中金 経済研究所 常務執行 役員 上席コンサルタント 植嶋平治先生</p> 			